

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年4月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2272100377
法人名	有限会社エーティ
事業所名	グループホームほほえみ
所在地 (電話番号)	富士宮市大中里1164番地の1 (電話) 0544-28-4141

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年12月18日

## 【情報提供票より】(2008年12月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>	<del>改築</del> /新築
建物構造	木造造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

### (4) 利用者の概要(12月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	1 名	要介護2	4 名			
要介護3	2 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	80 歳	最低	68 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人富士心身リハビリテーション研究所付属病院・和田歯科医院
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

街中から少し離れた高台の閑静な住宅街に、イルミネーションで飾られた木造2階建てのホームである。庭には近隣の子供達のためのぶら下り器やベンチを設置している。代表者宅もホーム敷地内にあるため、地域住民との交流も自然に行われている。「私たちはひまわりのような笑顔で自由な明るい生活が送れるよう支援します」を理念とし、職員の笑顔の基本とした対応が、利用者の安心した穏やかな生活に繋がっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>献立は揚げ物が多く、栄養バランス問題の指摘があったため、野菜を中心に肉・魚を取り入れた献立づくりへの改善がみられる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、サービスを見直し、ホームと共に自己の振り返りに繋げる機会とし、今後のより良いサービスを行っていくために活用している。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>2ヶ月に1回定期的に開催し、市職員・地域の区長・家族・利用者等が参加している。利用者の様子等を公の場で話すことに躊躇いを感じることもあるが、ホームの運営状況を正確に伝え、参加者より意見や助言を得られる機会としている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>家族の訪問時や、運営推進会議でも気軽に意見を出してもらえるよう働きかけているが、開所以来、苦情は出ていない。アンケート結果でも現在のサービスに満足しているという回答が多い。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>ホーム代表が地元の住民のため、開設時から自然なお付き合いができています。野菜の交換をしたり、地域の行事に参加したり、バーベキューに地域住民を招待するなど、住民との交流を行っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑顔は人間同士の気持ちを通じ合えるものとし、ケアの基本と考えている。利用者が住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう「私たちは ひまわりのような笑顔で自由な明るい生活が送れるよう支援します」を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に自分の感情をコントロールし、物事をプラス指向に転換し、利用者に対して、笑顔の対応を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者は、地元住民のため、立ち上げ当時から地域と協力関係が構築され、職員の中にも数名の地元出身者がおり、野菜の交換・提供、挨拶等が自然に行われている。また、行事を通して地域との交流があり、秋祭りに山車が入ってお囃子や踊りの披露があったり、ホームでのバーベキューに地域住民を招待している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員がそれぞれ自己評価を行い、管理者が報告書をまとめた。自らの業務を振り返り、見直しに繋げる機会としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者・家族・区長・市職員等が参加している。会議の中で事例発表をしているが、認知症の知識が理解不足の参加者もいるため、説明することに躊躇している。	○	地域の民生委員にも会議の参加を依頼し、ホームの情報を地域へ発信してもらえるよう働きかけたい。また、市担当者の「ホームを地域交流の場として活用できないか」という意見の実現に向けて取り組んでいくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	キャラバンメイトである管理者は、市の要請で、認知症サポーター養成講座を開催したり、介護相談員を受け入れている。また、富士宮市グループホーム部会で検討した意見・要望等を市担当者へ提出し、サービス向上に繋がられるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の金銭出納状況と共にホームの「ほほえみ便り」を3ヶ月に1度発行し送付している。家族の来訪時には、生活状況や身体状態を報告し、家族が不安にならないよう確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気楽に話せる雰囲気づくりに努めており、開所以来、意見や苦情は出ていない。契約時に苦情窓口担当者等の説明をしたり、意見箱を玄関に設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はなく、離職は定年退職者及び病気退職者のみである。また、新規職員が採用された際は、家族へ紹介するよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への出席は職員の希望を確認し、計画的に職務扱いで参加されている。参加者は受講後、報告書を作成し、内部研修としてミーティングで発表している。職員間の共有を通し、サービスへの向上に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市・富士宮市のグループホーム間で年1回の合同研修や、富士宮市部会を2ヶ月に1度開催している。また、運動会や新年会等を合同で行い、交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から情報収集し、本人と面談しているが、本人が納得しての入居は難しい。入居間もない頃は、帰宅願望が強く、職員は利用者につき添い、気の済むまで外を歩いてもらうなど、徐々に入居に慣れてもらえるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、利用者の得意分野や経験豊富な知識を引き出すように努めている。例えば、給食の仕事に従事してきた利用者からは料理や味付け等を学んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、利用者の希望や意向の把握を心がけている。コミュニケーションが困難な利用者もいるが、ちょっとした表情を見逃さないようにして、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族との情報交換で得た内容を介護計画に反映させている。また、職員は介助の中で、支援に対する意見や工夫等を介護計画に繋げている。センター方式を始めているが、活かすところまでには至っていない。計画作成担当者は、一人ひとりの利用者合った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは1ヶ月～3ヶ月に一度行っている。変更点は、色ペンで記入し、随時家族に報告している。また、事故に繋がる危険性がある事例については、全職員が参加して緊急ミーティングを開き、現状に即した介護計画への見直しを行い、家族へ説明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の中には体温調節のできない人がいるため、個別対応や機能維持と向上に向けた支援を行っている。また、嗜好品の買い物等、利用者や家族の要望に応じた支援を行っている。地域の寄り合い所でのミニ勉強会への支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の馴染みのかかりつけ医へ受診ができるよう同意のもと支援し、職員も受診時に付き添っている。定期健診や緊急時には家族にも同行をお願いしている。また、定期的に行っているバイタルチェックの状況を医師に伝えるとともに、家族へも定期的に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアは、医師・看護師・家族の協力のもと2名の実績がある。入居時、家族に、利用者が食事が摂れなくなった際の対応について、確認し、終末期ケアの希望があった際は、医師の指示のもとに職員が家族と共に付き添って対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳・人格・プライバシーに配慮しており、特に言葉かけは利用者が傷つかないように心掛けている。ミーティング時に、利用者や施設内のことなどの情報が外部にもれることがないように確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、自宅に居る感覚で自然体で過ごせるよう支援している。利用者それぞれの得意分野があり、生活の中でそれを活かせるよう支援している。男性利用者は、職員の子供を相手にオセロや将棋を教えることを楽しみにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と育てた野菜を収穫し調理したり、好みの献立づくりや食事の片付け・テーブル拭き等を一緒に行っている。調理の際、麺は短くしたり、刻んだり工夫し、常食としての触感を大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能で、毎朝バイタルチェックを行い、不安な場合は入浴前にもう一度チェックしている。夜間帯の入浴を希望する利用者がいないため、日中入浴であり、一番風呂を希望する人等の要望を取り入れている。毎日の入浴を嫌がる利用者等には個々に調整を行い、入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野が発揮できるよう支援している。歌の好きな人はカラオケを楽しんだり、煮魚や味付けご飯等の料理を教えてもらっている。職員が利用者へ感謝したり、褒めることで喜んで力を発揮し、生活歴を活かした役割づくりが自然にできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は個別対応で、住宅地一周が散歩コースとなっており、リハビリに繋がっている。また、日中近くのグラウンドへ行ったり、ベランダで日光浴を楽しんでいる。体調や天候を考慮し、全員での買い物や外食等の行事も楽しみとなっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害については十分理解し、基本的に施錠は行っていないが、利用者への突発的対応で職員配置に余裕がない場合は、施錠することもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一度消防署の指示に従って、119番通報や初期消火の訓練を職員が行っている。近所には訓練を行うことを伝えてあるが、日中留守宅が多いので参加は得られていない。職員は、防災訓練の必要性は理解しているものの、実際に災害があった際の対応方法等の不安を感じている。	○	利用者に防災訓練を伝えると、パニックになってしまう利用者もいるため知らせていないが、実際の災害時の対策として、利用者も含めた訓練の実施が行われることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の把握には努め、食事以外に午前・午後・入浴後・夜間起きた時など、水分を摂るよう促し、摂らない利用者には補助食品ゼリーで補っている。また、研修を通し、栄養バランスの講義を受けたり、不安やわからない点については栄養士に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりの良い二重ガラス窓で、カラオケ中も音が外へ漏れない。テーブル席以外は畳が敷かれ、ソファ席のテーブルはコタツとなっている。ホーム内外の飾りは、季節感を感じられるよう工夫している。また、犬やウサギを飼っており、利用者の癒しとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品があり、掃除の行き届いた居室である。床材は安全性を考慮しクッション性があり、ワックスをかけることにより臭い・汚れ防止に効果がある。換気扇やエアコン・扇風機等を設置し、過ごしやすい居室となっている。		